安城の経営者ら宇宙へ夢

エコキャップをロケット燃料に

安城市の企業グループが、使用済みのペットボトルのエコキャップから小型ロケットの燃料の試作品を作った。今後、試作品の燃焼実験をし、可能性を確かめる。

（紙山直泰）

回収6000個から試作品 北海道で燃焼実験へ

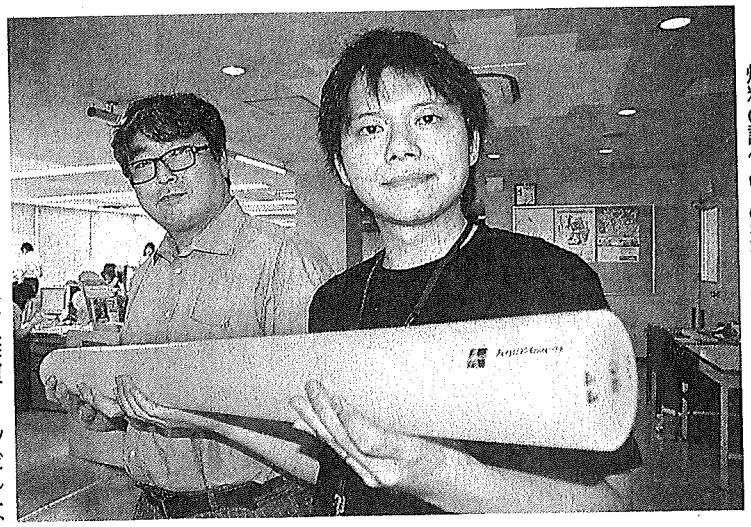
グループは、エコキャップのリサイクルに取り組む安城市の企業でつくる「アンジョウ・ハーツ」。新産業を育てようと、安城商工会議所が市内の企業に呼び掛けて二月に設立した。メンバーは、リサイクル業者や金型製造業など約二十社の経営者ら約三十人。

メンバーで運送会社経営の鈴木勇雄さん（四三）が今春、名古屋市で講演したNPO法人「北海道宇宙科学技術創成センター」（札幌市）の植松努理事から「うちで開発している小型ロケットの燃料は、ポリエチレン」と聞き、ポリエチレンと似ている素材のエコキャップでも燃料になるのではないかと考え、仲間に提案した。

市内で回収したエコキャップ約六千個を溶かして精製し、直径約七センチ、高さ約一メートルのポリプロピレン製の燃料棒五本を試作。うち一本を同センターに持ち込み、今月末に燃焼実験する。

同センターの小型ロケットは、火薬を使わずにポリエチレン樹脂と液体酸素を燃やして推進力にする方式。高さ約三～五メートルの大きさで打ち上げコストが安いため、実用化が期待されている。

同商工会議所職員の二村康輝さん（三〇）は「エコキャップを宇宙開発に役立てられれば、夢が広がる。既存概念から抜け出し、新しい産業を生む力になれば」と話している。



エコキャップから作られた小型ロケットの燃料の試作品＝安城市の安城商工会議所で

平成２２年７月２４日（土）　中日新聞　西三河版